

宇治市小中一貫教育と学校規模等適正化の方向 ～ NEXUSプラン～（概要）

1. NEXUSプランの趣旨

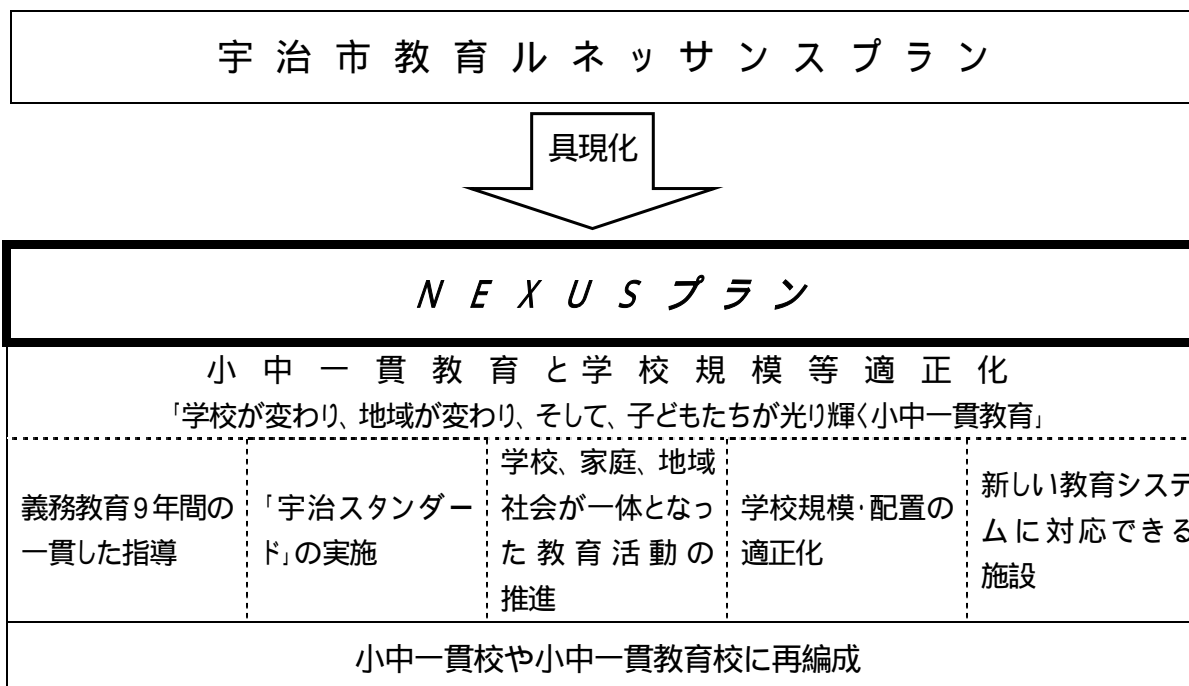
「将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども」の育成をめざし、小中一貫教育を中核に据えた新しい教育システムの構築や学校規模・配置の適正化、学校施設の整備を総合的に進めるため、宇治市教育ルネッサンスプランを具現化するものとして方向を示したものです。

2. NEXUSとは

「New Education X Uji System = 新しい教育と宇治のシステムの融合」のそれぞれの文字を取ったもので、「連結」や「きずな」を意味する英単語で、今後の宇治市の学校教育がめざす方向として、小学校と中学校の「連結」を強固なものにするとともに、地域社会との「きずな」を深めることにより、子どもたちが自らの将来を切り拓く力を身に付けるための教育システムを表わしたものです。

3. NEXUSプランの全体像

本プランでは、小中一貫教育を中核に据えた新しい教育システムの構築や学校規模・配置の適正化、学校施設の整備を柱とした教育改革を推進するために、本市の小・中学校を「小中一貫校」と「小中一貫教育校」の形態の学校に再構築することとしています。



4. NEXUSプランの内容

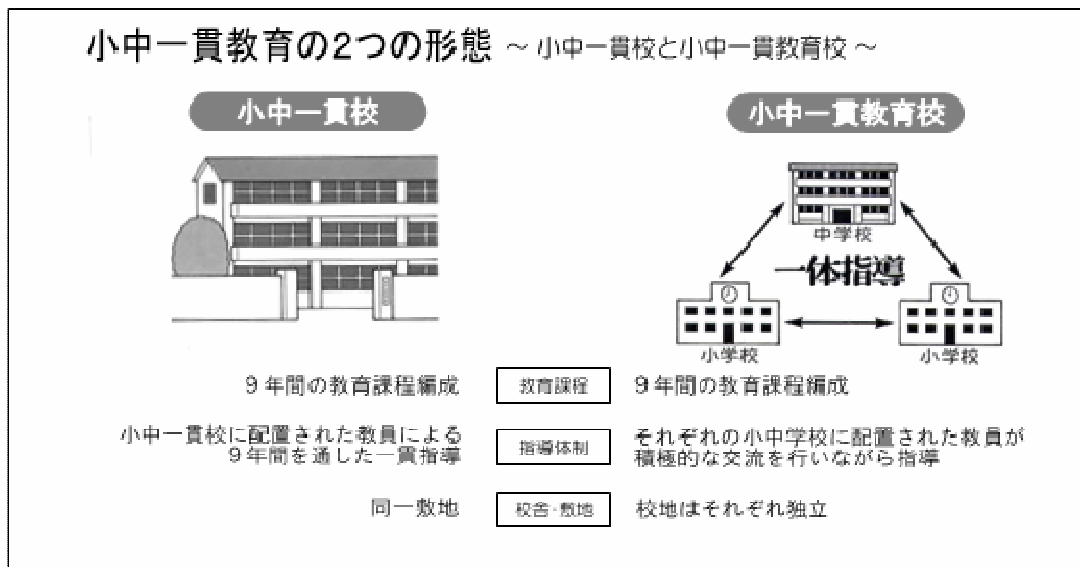
(1) 義務教育9年間の一貫した指導

宇治市における小中一貫教育の推進

小学校と中学校が教育目標や運営体制、指導体制、学校行事の一元化を図り、小・中学校の教職員が協働して教育活動を展開し、小学校入学時から中学校卒業時までの9年間の児童生徒の発達段階に応じた系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行います。

宇治市における小中一貫教育の形態

小・中学校の施設、組織・運営を一体化し、教職員、児童生徒が同一敷地で日常的に交流を行いながら教育活動を展開する「小中一貫校」と、小・中学校の施設がそれぞれ独立しているものの、教育目標や教育課程等の統一を図り「1つの学校」として機能する「小中一貫教育校」の二つの形態に再構築します。



(2) 「宇治スタンダード」の実施

発達段階に応じた義務教育9年間の系統的なカリキュラム

小・中学校のそれぞれにおいて完結したものとなっている教育課程について、系統性を高めた義務教育9年間の一貫した指導を進めるために、宇治市独自の小中一貫教育カリキュラム「宇治スタンダード」を作成します。

またカリキュラムでは、子どもたちの実態、身体面、思考面の発達、そして教育心理学の研究成果などから、9年間を前期(4年間)、中期(3年間)、後期(2年間)のまとまりとしてとらえます。

小中一貫教育カリキュラム「宇治スタンダード」のまとまり

前期	中期	後期
		
【前期のねらい】 基本的な生活習慣の定着 基礎学力の徹底 など	【中期のねらい】 前期から後期への円滑な接続 意欲的な学習態度の育成 など	【後期のねらい】 自己実現に向けた態度の育成 個性や能力の伸長 など

「いしずえ学習」の実施

前期・中期において、全教科の学習基盤である国語・算数の基礎的・基本的な内容を繰り返し学習させ、確実にその内容の定着を図るとともに、家庭学習とも関連付けながら取り組ませることにより、学びの習慣を身に付けさせることをめざして、「いしずえ学習」の時間を設けます。

「宇治学」の実施

地域社会の一員としての自覚を持って「ふるさと宇治」を愛し、よりよい宇治を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるため、「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」という考え方に基づく「宇治学」の時間を前期の後半から設けます。

「小学校英語活動」の実施

前期からAETの活用などによる英語活動を実施し、国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する興味・関心を高めるとともに、積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育てます。

(3) 学校、家庭、地域社会が一体となった教育活動の推進

中学校区ごとに各学校のPTA・育友会などが緊密に連携したり、地域諸団体も互いに連携を強めたりしながら、学校・家庭・地域社会が中学校区を単位に一体となって、子どもの教育に携わることができるような地域教育ネットワークを構築していきたいと考えています。

(4) 学校規模・配置の適正化

学校規模の適正化

小学校では学年3学級、中学校では学年6学級以上が望ましく、それぞれで過大規模校(31学級以上の学校)とならない規模が適正であると考え、単学級や過大規模の状態が将来的にも続く予想される場合には、通学区域の変更や学校の統合等を検討します。(笠取小学校と笠取第二小学校については、本項の対象とはしていません。)

学校配置の適正化

将来の就学児童生徒数の推移を的確に把握した上で、通学距離や通学の安全、地域コミュニティに十分配慮し、五つの小学校での分散進学を是正するとともに、小中一貫校や1中学校2～3小学校で形成された小中一貫教育校の形態となるよう通学区域などの再編を行います。

(5) 新しい教育システムに対応できる施設

学校施設の耐震化や老朽化対策を行うとともに、多様な学習形態や弾力的な集団による活動、地域の人々とともに行う活動などを支えるスペース、情報教育環境、バリアフリー化など、これからの教育内容・教育方法等への対応やノーマライゼーションに配慮した学校施設の整備を行います。

5. NEXUSプランの進め方

耐震化や老朽化に対応する施設整備の計画と整合性を図り、「小中一貫校」の建設など新しい教育システムに対応できる施設の整備を行うことを基本とした具体的な実施計画を策定し、計画的に本プランを推進していきます。